

## むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 宮下 宗一郎 殿

隊員氏名 小池 拓矢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2022年9月分】

### 1. 実施した活動の概要・状況

今月は、9月9日、10日に『かわうち・まりん・ビーチ ライトアップフェス 2022』、11日に『むつホタテフェスティバル』が開催され、前日までの準備と当日の運営を行った。両イベントとも予想を上回る来場者があり、地域おこし協力隊として川内での地域を巻き込んだ観光振興の第一歩に貢献できた。

（主な活動）

◇9月9日（金）、10日（土）かわうち・まりん・ビーチライトアップフェス 2022

『Reborn かわうち実行委員会』の主催事業である当イベントに、副委員長として準備から運営まで携わった。当イベントは、かわうち・まりん・ビーチをペットボトルキャンドルやイルミネーションなどでライトアップし、これまでこのようなイベントが少なかった川内地域に、にぎわいを創出する目的で実施された。

自らは主にライト等の装飾の企画を担当し、2日間で約 2,000 人の来場者にイベントを楽しんでもらえた。当イベントの準備・運営を通して、地域の方々とのつながりがこれまで以上に深まったため、今後とも協力をいただきながら、協力隊としての活動に尽力したい。



◇9月3日（土）ふれあい体験館企画展特別講座『川内川の恵みとダムの役割』

海と日本 PROJECT の助成事業である「むつ市海と森ふれあい体験館 海と日本 PROJECT 企画展『ホタテをめぐる世界』」を8月30日から9月19日まで開催し、その一環として、当講座を企画した。

企画展では、川内町漁協様や青森県水産総合研究所様にご協力いただき、ホタテの特大模型の展示やホタテ養殖の方法、研究などのパネル展示を行った。

特別講座では、むつ市ジオパーク推進員の田中誠也氏を講師に迎え、川のはたらきを砂に見立てたプラスチック粒子の移動から学ぶことのできる「エムリバー」という実験装置を使い、栄養が川から海に移動する流れや、ダムによる水量の調整について、ご講演いただいた。実験を行って体験できる講座は参加者にも好評で、川内地域は川内川の氾濫やそれに伴う川内ダムの建設という歴史があるため、また地域の方々を対象に同様の講座を開催したい。



◇9月11日（日）むつホタテフェスティバル

上記の企画展と同様に、海と日本 PROJECT の助成事業として、当イベントを開催した。川内地域はホタテなどの海産物が有名である一方、これらを食べることのできる飲食店が少ない。そこで、子どもたちにホタテを食べながら、海について楽しんで学んでもらうことを目的にイベントを企画した。

むつ市内の飲食店によるオリジナルホタテメニューの販売や、ホタテの貝殻を使ったゲームやものづくりを700名を超える来場者楽しんでいただいた。特にホタテ釣り体験は大人気となり、当初限定100名様で準備していたところ、急遽ホタテの数を増やして約160名の参加者となった。来年度以降も継続し、川内の特産品のPRを続けていきたい。



◇小学校等の地域団体の体験活動

9月 1日（木）川内中学校

7日（水）苫生小学校3年生

8日（木）第三田名部小学校

21日（水）苫生小学校6年生

今月は、上記の学校が体験館を訪れ、カニ釣りなどの磯観察やシーグラスを使ったものづくりなどを実施した。



2. 翌月の活動予定

10月8日（土）、9日（日） むつ小川原財団助成事業 川内町モニターツアー

13日（木） 青森大学 講師（ソーシャルビジネスについて）